

【ジャケットイラスト】



色分け

灰色のハイライトは状況説明

【台本】

///トラック①

愛、彼氏のアパートに向かっている

(愛)

私の名前は柚木愛。

今年の春から、高校の教師をしています。

今日は久しぶりの休み。一日彼の家でゆっくりする……

ゆっくりするはずだったのに……

愛

「ただいま～。ごめんなさい、急に呼び出されちゃって」

愛

「あれ？ 誰か来てるの？」

陽子

「ちゅぱっ♡ んんっ……むちゅ♡」

愛

「……え？」

陽子

「あら、帰ってきたんだ。んんっ♡ あん♡」

愛

「ちょっと！ なにやってるんですか!？」

陽子

「ちゅぱ♡ 何って、見たらわかるでしょ？」

陽子

「セックス♡」

///タイトルコール

(愛) 爆乳彼女と

(陽子) 隣の爆乳お姉さんの

(愛) 彼氏を賭けた奪い合いレズバトル

(陽子) 彼氏を賭けた奪い合いレズバトル

愛と陽子がベッドの上に並んで座る

愛 「ちょっと電話に出ただけなのに……

どうしてこうなったの？ 説明してよ！」

陽子 「この娘が彼女なんだ？ お堅^{かた}いね〜？」

愛 「人の彼氏に手を出して、よく堂々としていられますね」

陽子 「今日もお料理を作りすぎちゃったから、届けにきたの」

陽子 「そしたら、たまたま流れで……♡ それだけよ」

愛 「……っ！ 今日も!? 何回もやってないですよね？」

陽子 「さあ？ どうかしらね？」

愛 「ねえ、君は優しいから、断れなかったんだよね。

私の方が好きだよね？」

陽子 「ねえ……わたしに乗り換えていいことしない？♡

わたしとやる方がきっと楽しいわよ♡」

愛 「私とするほうがいいよね？　そうでしょ？」

陽子 「ふふ……♡　あなた毎回毎回、
大きな喘ぎ声上げてたけど、
自分だけ楽しんでることに気が付いてないの？」

愛 「……っ！　ひ、ひとのセックス……
盗み聞きしてたんですか？」

陽子 「あら、ご自分の喘ぎ声の大きさ、
わかってらっしゃらない？」

愛 「……気持ちいいものは……仕方ないじゃない……」

陽子 「ねえ彼氏君。
わたしの方がもっと気持ちよくできるわよ」

陽子、服をめくりおっぱいを見せつける

陽子 「ほ～ら♡　大きいおっぱい好きでしょ？」

愛 「ちょっと！　話し合いの途中で……！
君も見ないで！」

陽子 「ほらね？　わたしの方を見てる」

愛 「くっ……！　ほら見て……♡
私のおっぱいの方が好きだよ」

愛、負けじとおっぱいを見せつける

陽子 「わたしのおっぱいの方が大きくて、
マシュマロみたいに柔らかいよ♡」

愛 「私の方が大きくて、張りがあって気持ちいいよ♡
ね？ お願い……私を選んで♡」

陽子 「こっちにおいで♡ Kカップの爆乳よ～
おちんぽ包み込んであげるから♡」

愛 「私もKカップよ！
またいつもみたいに抜いてあげるよ？」

陽子、男の手を取り胸に当てさせる

陽子 「ほら♡ 柔らかいでしょ？ 揉んでいいのよ。
ンンっ♡」

愛、男の手を取り胸に当てさせる

愛 「あ、ずるい！ 私の方が絶対気持ちいいから！
揉んでみて♡ あああっ♡」

陽子 「ねえ、どっちがいい？♡」

愛 「どっち？ 私だよね♡」

陽子 「わたしでしょ？ 正直に言っているのよ♡

このおっぱいで、パイズリされたいでしょ？」

愛 「パ、パイズリフェラ……またやってあげるから♡」

陽子 「わたしの方がうまいわよ♡ そう思うでしょ？」

愛 「私とセックスしたいよね？ はっきり言って！」

陽子 「わたしと濃厚なセックスしましょうよ♡ ねえ、彼氏君」

愛 「私としよ……♡ ね？ おねがい♡」

陽子 「わたしがいいんでしょう？ はああああん♡

おっぱい揉むのうまいね♡」

愛子 「んんんっ♡ 気持ちいい……♡ ど、どう？

私の方がいいよね♡」

陽子 「ふうふう♡ んんっ♡」

愛 「はっ♡ んんっ♡ はあはあ……♡

でも、答えは言ってくれないんだね……」

愛・陽子、睨み合い

陽子 「仕方ないからさ。わたしたちで決めましょうよ」

愛 「決めるって……どうやってですか？」

陽子 「決まってるでしょ？ からだで♡」

愛 「っ！ 人前で服を脱いで……何のつもり？」

陽子 「あら？ 身体からだに自身が無いの？」

愛 「何を言ってるのかわかりません」

陽子 「女同士で決めるっていったら、これしかないでしょ？♡」

陽子、指を愛の股間に這わせる

愛 「んんっ♡ お股……こす擦らないで♡」

陽子 「ふふ♡ ねえ、逝かせ合いで勝負しましょうよ。

負けた方が彼から手を引く……それでどう？」

愛 「そんな勝手な……」

陽子 「あら？ 彼氏君は結構乗り気みたいだけど」

愛 「そ、そうなの……？ わかった。君が納得するなら……」

愛、パンツ一枚になる

愛 「信じててね。

私の愛の方が強いってところ、見せてあげる」

陽子、パンツ一枚になる

陽子 「ねえ彼氏君。今からこの邪魔な女、追い払うから、

ちょっと待っててね♡」

愛 「提案があります」

陽子 「あら、何かしら？」

愛 「2回ギブアップしたら負けでどうですか？

もちろん、逝かせ合いで」

陽子 「ふふ♡ 意外と面白い提案するじゃない？

どうしたの？」

愛 「あなたみたいな人は、徹底的に心を折らないと、

またやりますから」

陽子 「ふ～ん。いいわよ。後悔させてあげる♡」

愛 「人の男に手を出して、無事で済むと思わないでください」

陽子 「ふふ♡ 男の奪い合いなんて、よくあることでしょ？

からだ
身体で勝ち取ってみなさいよ」

愛 「いいんですね？ 遠慮しませんよ？」

陽子 「立ち上がれないくらい逝かせてあげる♡」

愛・陽子、ベッドで膝立になって、向かい合う

愛 「……………ふう……………ふう……………」

陽子 「……………ふう……………ふう……………来なさいよ」

愛・陽子、激しいキスを始める

愛 「んちゅうううう♡ んちゅ！ んじゅう！ ぐちゅ

くちゅ！ ちゅぱっ！ ぶはああ！ むちゅううう！」

愛 「あああ♡ あああ♡ 乳首が擦れて……ッ！ ああんっ」

陽子 「おっぱいが自慢なんでしょ？

乳首……♡ 擦^すり合いっこしようよ」

愛 「あああ♡ 負けない……んっ！ “おおっ!!”

陽子 「はあん♡ あああ♡ 乳首、弱いのか？ ねえほら♡」

愛、快感をごまかすようにキスを継続

愛 「あああああああん♡ むちゅ！ んじゅうううう♡」

陽子 「んんん♡ ぷはああっ♡ ほら、焦ってる焦ってる」

愛 「ん”おおっ!! ああああああ！」

陽子 「乳^{ちくび}相^{ずもう}撲♡ ふふ……のこったのこった♡」

愛 「んんっ！ おほおおおおっ！ はあああ……はっ♡

んはあああっ！ んああああ」

陽子 「さあ、負けちゃいなさい？ 潮^{しおふ}吹いちゃいなさいよ」

愛 「こんな……おっぱいだけで……”お”お”お!!♡」

陽子 「ほら、ギブアップして♡」

愛 「いやだあ……」

陽子 「もっと強い刺激がイイのか？ うっふん♡ んんっ♡」

陽子、より激しく乳首を擦り合わせる

愛 「` おおおおおおおおおおおおおッ!!」

陽子 「骨抜きになるまで♡ 擦^すり合わせてあげるわ♡」

愛 「乳首だけで……こんなに感じるなんてえ! んおおっ!」

陽子 「ふふ♡ やだあ、顔真っ赤にして♡

もうキスしてくれないのかしら？」

愛、キスを継続

愛 「はあはあはあ……んちゅううううううう♡」

陽子 「むちゅうう♡ ぶちゅううううう♡ ぷはあぁっ!

ワンパターン^{おんな}女……ん”おおおッ!!」

愛 「んんんんんんんんんんッ!」

愛、陽子のパンツを引っ張り上げる

陽子 「ちょ、ちょっと! パンツがっ!

おまんこに食い込んで♡ ひっぱるなあ!」

愛 「はあはあ! うるさい! むちゅうう♡ じゅぱっ♡

んちゅうううう♡ ぷはあぁぁっ♡」

陽子、愛のパンツを引っ張り上げる

陽子 「ちゅぱっ♡ あああ！♡ ふはああっ♡

ぬの
布が……入っちゃうっ♡ ちゅぱっ！ ふはあっ！

もう！ この下着！ いくらしたと思ってるのよ!!

このおおっ！ おかえしいい！」

愛 「ああああっ!! はあ♡ はあはあ♡ 食い込むうう！」

陽子 「千切れるまで食い込ませてあげるわよ！ はあはあ♡

こんなやすもの！ “あああああああああ！♡”

愛 「ブランドものだもん！ はあはあ♡ はうううう♡

そっちの派手なパンツ……ちぎってあげます……

あああああああ♡」

陽子 「あああ！ あああ！ クリトリスに当たってる！

はなせえええ！」

愛 「あなたも！ 同じことやってるのよお！」

陽子 「“おおっ!! うぐっ！ んあああああ！ 逝け！」

愛 「逝って！ ください！ こんのおおおおおっ！」

陽子 「“うんお”おおおおおーッ!!」

愛 「“うお”おほおおおおーッ!!」

愛・陽子、同時にパンツが千切れて、ベッドに倒れる

愛 「はあはあはあはあ……♡ 信じられない……」

陽子 「はあはあ……♡ この^{やばんじん}野蛮人……」

愛 「どっちがですか、変態……」

陽子 「ふふ♡ でも……ここからは全裸での女の勝負よ。

^{こざいくな}
小細工無し」

愛 「負けませんよ」

陽子 「あらそう。でも……弱点はもうわかってるわよ？」

陽子、愛の両乳首を指で挟む

愛 「はうううっ！」

陽子 「乳首♡ 弱すぎよ」

愛 「はあああああああああッ!!」

陽子、倒れ込んだ愛に馬乗りになる

陽子 「はい、マウントとった♡ あは♡ こんな責め……

受けたことあるかしら？」

愛 「や、やめ……ッ!! ん”おおおおおおおおお!!

おおおおおおお!! ぶおっ!! ”おほっ!

こおおおおおっ———ッ!!」

陽子 「おっばいブルブル～あはは♡

見て彼氏君！ みっともない声……

君の彼女壊れちゃうかも♡」

愛 「みないでえ……みないでえええええ！！

ん”おおッ！！ ん”おおッ！！ ん”おおッ！！ ん”おおッ！！」

陽子 「ほ～ら、逝っちゃえ♡ 雑魚乳首ちゃん♡ ほらほら♡」

愛 「ぐおおおっ！！ おおおっ！ 逝きませんからあっ！！

んほおおおっ！」

陽子 「そうです、かっ！ ふふ……乳首……押し潰す……」

愛、陽子の乳首を引っ張りまわす

愛 「はうっ……♡！！ おほおおおおおおおおおッ♡

おおおっッ……おおおッ……お……か……え……しいィ！！」

陽子 「あはあああッ！！ オオッ！！♡ ンほおっッ！

ひっぱる……なあ……！ ”おほおおおおおっ！

ひっぱるなあああッ！！♡ ”んおおおおおおおおお！」

愛・陽子、お互いが乳首を責め合っている状況

愛 「あひいいっ！！ あああ♡ ギブしてください！」

陽子 「そっちが降参する立場でしょ！ ンおおおッ♡」

愛 「乳首!! へし折りますよ! んあああああ♡」

陽子 「こっちの……セリフ♡ んあああああああッ♡

まっつてええええ!!」

愛 「はあはあはあ♡ 待ちませんから!

引っ張り倒してやるううううーッ!」

陽子 「はあああ!♡ 刺激がっ♡ ぶうううううっ!!」

愛 「落ちてっ♡ はああああ♡ ああああん♡」

陽子 「あああああああーッ! んええええええ!」

愛 「はあはあ! 逆転です……」

陽子 「あああ♡ あああ……♡ んぐっ♡」

愛 「君も見てて……私がこの人を……倒すところを!」

愛、陽子に覆いかぶさり手マンを始める

陽子 「ぶおっ!! “おほっ! ぼほおっ!! ん”おほっ!

ん”おほっ! んんん”おほおおっ!」

愛 「この手マンは! あなたがギブするまで!

やめませんから! 潰します……ッ!」

陽子 「ああッ♡ あああッ♡ “おおあッ♡

んお”おおおおーッ!」

愛 「逝ってえええええッ！ 逝ってよお！ 彼は！

私のものなんだからああああッ！！」

陽子、乳首を引っ張って反撃する

陽子 「ん”んっ♡ はあはあはあ♡ ん”おおおおおッ！！

わだじのものよ”おおおおおおおッ！！」

愛 「ぷふうううッ！ 乳首ばっかりいいいい！！

ん”おおおおおおおッ—————ッ！！」

陽子 「おりなさいよ！ はあはあ……重いだよ！」

愛 「重く……ありませんからあ！ んおッ！ 早く逝って！」

陽子 「逝くのは、そっちよお！ ぼほおっ！！ ん”おほっ！」

愛 「ほら♡ 意識飛ぶんじゃないですか……？」

陽子 「調子に乗らないでよ……へたくそお……♡」

愛 「はあはあ♡ その割には……びちゃびちゃですよ」

陽子 「”おっ！ ほおっ！！ ”おッ……！！ んおおおおおッ！！」

愛 「ギブでしょ！ はやく！ んあああッ！

ぎぶ……してください！」

陽子 「はあはあはあはあはあはあ……！！」

愛 （このまま……おしきる……………！）

愛 「んあああああああああああああッーっ!!」

陽子 「密着戦♡ また挑んでくれてありがとう♡」

愛 「“おっ! ”おッ……!! ”おおおお……ッ」

愛 (なに……なにされたの……?)

陽子、愛のお尻から指を抜き出す。

陽子 「お尻の穴、いい感度じゃない♡ ^{からだ}身体しびれちゃった？」

愛 「”おお……ッ! あああ♡」

陽子、愛の後ろから抱き着き、ひっくり返す。

陽子 「さてと♡ 後ろから失礼しま〜す♡」

愛 「んんんんッ♡ はあはあ♡ あああ♡」

陽子 「彼氏君見える? 今から君の彼女……^{しおふ}潮吹きするから♡

おまんこよく見ててね♡」

陽子、背後から愛へ一方的な手マンを開始する

愛 「“おっ! ”おッ……!! ”おお……ッ! ”おッ! ”おッ

”やめでえええ”え! いぐ! いぐ!”

陽子 「やめてほしい? ギブってことかしら？」

愛 「それはいやああああ! ぜったい、いやあ!!

おっ! ”おオオオオオオッ! ”おッ! ”おッ!!」

陽子、手マンをしながらおっぱいを揉む

陽子 「おっぱいと、おまんこの同時責め……耐えてみなよ♡

彼氏君への愛が本物ならね♡」

愛 「"オ"オ"オ"オ"オオッ！ "オ"オ"オ"オ"オッ！」

陽子 「あはは♡ 喘ぎすぎでしょ！ こっちが逝きそう♡」

愛 「やめでえ……"イっちゃう!! "オ"オ"オ♡

"オオオオオオオッ！ "ああ♡ "ああ♡

"ああ♡ "ああ♡ "ああ♡」

陽子 「さっき私に、ギブするまで手マンやめないって、

言ったわよね？ そのままお返しするわ♡」

愛 「 ああああーッ♡ やめてえええエッ！ うえっ♡

んんんんんッ♡ きちゃうううう!!

おまんことっ、おっぱい……同時はむりいい……!!」

陽子 「彼氏君♡ もう君の彼女……お潮^{しお}噴いちゃうよ♡」

愛 「みないでえええええ!! ああッ♡ オオッッ!!

オオオオッッッ♡ オオオオッッッ♡」

陽子 「負けちゃえ♡ 負けちゃえ♡ ほら♡ いいじゃない、

お潮^{しお}ぶちまけるくらい♡」

愛 「オオオオツツツ♡ オオオオツツツ♡

もう……だめええええ!! ンお”おおおおッ!”

陽子 「逝け逝け♡ ほら♡ 思いっきり出しちゃってよ♡」

愛 「ごめん! ごめんね! 目を……閉じてて……ッ!

く、くるううううッ!!

”オオ”オオツツツ♡ ”オ”オオツ”オツツ♡」

愛 「ん”オおおおおおおおッ—————♡!! (絶頂)」

陽子 「あはははは♡ ごめんね彼氏君。

そこまでお潮しおが届くと思わなかった!」

愛 「”オオ”オオッ! ”オオ”オオッ!”

陽子 「わたしのテクの方が上って、わかってくれたかしら?」

愛 「まだ……ぎぶ、してないです……」

陽子 「あら? だいふんしゃ大噴射しておいて、よく口が聞けるわね♡」

愛 「まだ……ぎぶあっぷって、言ってませんから!」

陽子、背後から手マンを再開する

陽子 「知ってるわよ。これから言わせるの♡」

愛 「んんっ♡ ンへええええええええええッ♡

”オオ”オオおおおおッ! ”オオ”オオおおおッ!”

陽子 「うふふ♡ ギブアップするまで手マンを続けるわよ～

あなたもそうするつもりだったんでしょ？」

愛 「あああ！ 逝ったばかりなのにいいい！」

陽子 「男の奪い合いで、甘えたこと言わないでよね♡」

愛 「あああッ♡ ああああッ♡ おまんこがああッ！

おかしくなるううううーッ！！」

陽子 「ほら、もう一発^{いっぽつ}♡ 逝っちゃえ♡」

愛 「えへえええ♡ ほッ……ッ！！ “おッ……ッ！！

まって……ごおおッ！！」

陽子 「ギブする？♡」

愛 「ぜったい……いやあッ！ “おッ……ッ！！

“おッ……ッ！！ “お”おッ……ッ！！」

陽子 「これでも？」

愛 「んええええええええええええッ！！ “お”おッ”お”おッ」

陽子 「両乳首潰しながらの、足マンよ♡

あなたを逝かせる技なんて、いくらでもあるわ♡」

愛、股間を突き上げて耐えている

愛 「“お”おッ”お”おーっッ！！」

陽子 「あらあら、おまんこ突きあがってきた。

彼氏君に丸見えよ♡」

愛 「あああああ！ あああああ！ ぐうううっ！

また！ きちゃううっ！ いぐっッ！ イグうっッ！」

陽子 「ふふ……逝っちゃえ、ざ〜こ♡」

愛、陽子と愛にかかるような激しい潮吹き

愛 「ぶッ！ んおおお”おおおおおーッ！（絶頂）」

陽子 「はあはあ……ちょっと♡ 顔にかかったじゃない。

もう♡ 激しいんだから♡」

愛 「あぐっ……ぶ……んぶ……ッ！」

陽子 「あら、^お堕ちちゃった？ ギブってことでいい？」

愛、仰向けになってぐったりしている

愛 「んはああっ……んはああっ…… ギブアップだけは……

ぜったいたいしませんから！」

陽子、股間を愛の顔に当てて座る

陽子 「はあ……しつこい女ね。

そうだあ〜♡ ギブアップって言えないお口なら、

私のおまんこでもお掃除しなよ」

愛 「んんんッ！ ぶへえええええッ！」

陽子 「マングリ^{がた}固め♡ この体勢でまだ勝てると思うの？」

愛 「んんんっーっ！ ぶうううーっ！」

陽子、愛の下半身を持ち上げクンニを始める。

陽子 「早めにギブした方が、良いと思うわよ♡ はむうう♡

あむうう♡ むちゅううう♡」

愛 「ぶうッ♡ “オオオッ♡ “オオオッ♡」

愛 (なにこれ……クンニ……されてる……!!)

陽子 「ちゅう♡ んちゅ♡ おまんこ、^{あいえき}愛液^{あふ}で溢れてる♡

いつまでもつのかな？」

愛 「……………ぶおおおっッ！ “オオオオオオオオオッ♡」

陽子、愛の顔から少し股間を離す

陽子 「ねえ、ぎぶ？ おまんこプレスから解放してあげてるうち

に、降参した方がいいわよ」

愛 「おええッ！ おええっ！ けほっ!! いやだああ！

あきらめませんっ……！」

陽子 「じゃあ継続～♡」

愛 「ぶぐうううううううッ！ んおぶうううううッ！」

陽子 「んじゅるるるるうううう!! むちゅううう♡」

愛 「“オオオッ♡ “オオオッ♡ “オオオオオオオオッ♡」

愛 (おまんこが吸われて……^{あいえき}愛液とまらない……!)

陽子 「ぷはあああッ! ギブしたくなったら、
おまんこ舐めてね? 少しだけしゃべらせてあげる」

愛 「ぶぐうううううう! ぶぐううううううう!」

陽子 「ほらほら♡ ちょっと考えればわかるでしょ?
逆転できる体勢じゃないって……♡」

愛 「んぼおおおおおおおッ————ッ! (絶頂)」

陽子 「は〜い、また逝った♡ すごく^{ぶざま}無様よ?♡
噴水みたい」

愛 「“ おおおおおおッ……おおお……ッ!」

愛 (もう、だ……めえ……っ……)

陽子 「まだ頑張るの? こんなみっともない^{かつこう}恰好で」

愛 「んぶうううっ! んぶううううっ! んぐっ!」

愛 (ぐ……ぐるじい……ッ!)

陽子 「なあに? お尻叩いて……お話したいの?」

愛 「ぶぐうううう! むぐうっ! むぐっ! ぶううう!」

陽子 「言ったわよね？ ギブアップしたいなら、
おまんこ舐めろって……♡」

愛 「ぶええっ……んぶ……ぐぶ……ッ！」

愛 (くるしいッ……！ くやじいッ……！)

陽子 「いいのよ～。 このままずっと逝かせてあげても♡」

愛、泣きながら陽子の股間を舐める

愛 「んおおッ!! ぶっ！ むちゅ！ レロッ！ ちゅぱっ
むじゅっ……むじゅ」

陽子 「は～い、よくできましたぁ♡

おまんこ、少し浮かせてあげたわよ」

愛 「ぷはあああ！ はあああ！ はあああ！ はあぁっ！」

陽子 「で、何か言うことあるの？

わたしのおまんこに向かって、はっきり言いなよ」

愛、ここから泣きながら話続ける

愛 「ぶええっ……ッ！ んえええっ！ ひぐっ！ うえっ！」

陽子 「降参できないなら、おまんこプレス……続けるけど？

もちろんクンニも♡ むちゅううう♡

んじゅるううううううううううう♡ むちゅううう♡」

愛 「くううっ……ッ！ んああああッ♡ もう、ダメェ！
ギブッ！ ギブアップしますうッ!! まげ“まじだぁッ！」

陽子、愛を解放し立ち上がる

陽子 「はぁ～い♡ 彼氏君。聞いた？ ギブアップだって」

愛 「んおおッ♡ オオっ♡ んあああ……………」

陽子 「こんな女、わたしのクンニで十分逝くんだから、
君のおちんぼ、わたしがもらったほうがいいわよね♡」

愛 「なに……を……………!? はあはあはあ……………」

陽子 「ご褒美♡ ちょうだい♡」

愛 「や、やめてえええッ!!」

陽子、男とセックスを始める

陽子 「んああああああああああんッ♡♡

すごいっ♡ 大きいのが♡ 奥まで……ッ♡♡」

愛 「やめてえ……ッ！ はなれてええ……ッ！」

陽子 「あんッ♡ アッ♡ アッ♡ どう？ 君の彼女より、
締まりがいいでしょ♡!?」

愛 「やめてください！ まだ闘いは、終わってないから！」

陽子 「あなたがぶっ倒れてるからでしょ？

ンおおおっ♡ ああああん♡♡ うんっ♡ うんっ♡」

愛 「このお……おちんぽ！ ぬいてえええッ！ バカ女！」

陽子 「くっ……じゃまばっかり……んああああッ♡」

愛、陽子を掴んで引っ張り上げる

愛 「んんんんんんッ！ 私のおちんぽなんだからあ！」

陽子 「わたしのものになるのよ!! まけいぬのくせに！」

愛 「まだ、一回ギブアップしただけです！」

陽子 「すぐにもう一回言わせてあげる。

彼氏君、少し待ってね」

愛 「ごめんね……もう絶対ギブアップしないから。

私を待ってて」

陽子 「わかってるでしょうね？ 次降参したら、

わたしの勝ちよ」

愛 「もう死んでも降参しません。

あなたを潰すためなら、手段を選びませんから」

陽子 「さっきもそんなこと言って、

わたしのおまんこに降参したくせに♡」

愛 「今度は私が、みっちり……指導してあげます」

陽子 「たのしみね～せんせい♡」

愛 「もう負けないからあ！」

///トラック①終

///トラック②

愛 「んんんんんんんんんんんーッ！」

陽子 「んっ！ きゃあああッ！」

愛、陽子と共に壁に激突。揉み合う

愛 「はあはあはあ！ はあはあはあ！ こんのおおお！」

陽子 「はあはあ！ まん毛^げっ！ 掴むなあッ！ あああッ！」

愛 「処理してないのがわるいんでしょ！ くっ！ んあッ」

陽子 「ぐぶっ！ はぐっ！ あんんッ！♡」

愛 「おっぱい比べ……やりましょうよ」

陽子 「はあはあ♡ んんっ！ 懲りないわね」

愛 「ああ……♡ んっ、乳首……勃^たってる……♡」

陽子 「乳首が……♡ 固いのよ……」

愛 「はあはあはあはあはあはあ♡」

陽子 「はあはあはあはあはあはあ♡」

愛 「んんんっ♡ 逝ってください！」

陽子 「そっちが逝くのよ！ んああああッ♡」

愛、陽子の耳を舐める

愛 「ちゅば……んじゅばっ……じゅるっ♡」

陽子 「はあはあ！ 耳……っ♡ ずるい……♡」

愛 「はあはあ♡ んじゅっ♡ ずるくない……」

陽子 「じぶんだけえ……♡ ツ！ やめっ……
ん”お”おおおおっ！！」

愛 「……逝きましたか？」

陽子 「” ああっ♡ ”ああっ♡ 逝ってない！」

愛 「逝ったくせに！」

陽子 「逝ってないわよ！」

愛 「じゃあ、言い訳できないくらい……
逝かせてあげます」

陽子 「むぶうううううっ！！ んぶうううっ！」

愛 「はあはあ！ ふっ♡ さっき、あなたのおまんこに、
呼吸を止められてわかりました」

陽子 「んんんッ！！ ぶぐううっ！！ ぶうううっ！！ ぶう！」

愛 「酸欠になると、結構感じちゃうんですね……♡」

陽子 「ぶええっ！ んぶうううっ！」

陽子 (い、いきが……………っ)

愛、大きな胸で陽子の顔を覆う。

愛 「私のおっぱいのお味はいかがですか♡?」

陽子 「ん”おおおおおおおおおッ!! ぶううううう!

ぶうううううううーッ♡」

愛 「そして…… あああんっ♡ ああああっ♡

おまんこのっ♡ こすりあいです……♡ ^お墮ちてっ!

うんっ! ください! んんっ♡」

陽子 「んんんッ♡ ぶっ!! ぶっ!! んぶ!!

んんんッ♡ ”おおおおおッーッーッーッ!

愛 「はあはあ♡ 逝ってよ♡ ねえっ♡ ”おおっ♡」

陽子 「ぶおっ♡ ”おおおおおおおッ♡ ぶっ!! んぶっ!」

陽子 (やばい……これ……ほんとに……意識が飛びそう)

愛 「はあはあはあはあっ♡ ギブアップしますか!?)」

陽子、酸欠状態で股間を責められる

陽子 「ぷはあああああっ♡ はああああっ♡

ぜったいしないから!! んぶううううううっ!!

ぶううううううッ!! ぶへえええええ♡」

陽子 (ぐるじiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiッーッーッ!)

愛 「うんっ♡ うんっーっ♡ はああはああ♡
ぜったい！ ギブアップさせますから！」

陽子 「ンおおおおおおっ♡ ふううっ！ ふうッ！」

陽子 (やばい……ッ！ やばいッッ！ おまんこがっ！)

愛 「もう我慢できないでしょ！ ねえっ！
潮^{しお}吹きしてください!!」

陽子 「ぶっ！♡ んんんんんッ♡」

愛 「君もみてて！ 私のおまんこが……
この人に勝つところ！」

陽子 「ぶふうううっ♡ ふうっっふううう♡」

陽子 (もう……だめええええええええええッ♡)

愛 「逝ってええええええっ♡ んんっ♡ んんっ♡」

陽子 「ん”おおおおおおおおおッーッ♡ (絶頂)」

愛 「はあはあはあはあ♡ ”おおっ！♡ はあはあ♡
今度こそ逝きましたね？ 見事な潮^{しお}吹きですよ」

陽子 「はあはあ♡ ”おおっ♡ はあはあ……だからなに？
まだ……ギブアップしてないから」

愛 「私が有利な態勢なのは……わかりますよね！」

陽子 「んおおおおおおおおおッ♡ ああっ♡ ああっ♡」

愛 「じゅるううううううううっ！ ちゅぱっ♡

おっぱいのパイズリ……受けたことないはずよ」

陽子、おっぱいをおっぱいで挟まれながら乳首を吸われる

陽子 「おおっ♡ `おおっ！ おほっ！！ んお！

ちくびがああ！ すわれてっ……う”おおほおおっ！

おおっほおおおおおっ♡」

愛 「いしき……ぶっとばして……あげます……

ちゅぱっ！ んじゅっ！ むちゅううううううっ♡

ちゅぱっ！ はあはあはあ♡ ギブしないんですか!？」

陽子 「ノーっ！ ノーッ♡ こんな程度でえ♡ “んっ!!

”おへええええっえっ!!」

愛 「はあはあ♡ むちゅううううううううっ♡♡」

陽子 「からだがあ……っ！ のけぞる……っ♡ やばい……♡」

愛 「ちゅぱっ♡ もうむりでしょおおお！」

陽子 「おほっ♡ んおおおッ♡ おえええええ♡」

愛 「ちゅぱっ！ んじゅっ！

ぎぶしてください！ はやく！ むちゅうううう♡」

陽子 「えへええ……♡ あへえええ……♡ ごほっ♡

おえっ♡ “おおおおおおおっ♡”

愛 「ちゅぱっ♡ もうむりでしょおおおお！」

陽子 「ああ♡ “ああああっ♡ おかえしよおおおお!!”

愛 「んっ!! いやああああ♡ また……おっぱいい！」

陽子、愛の乳首を指でいじる

陽子 「ちくび……すりつぶす……!♡ ん”おおおおお!♡”

愛 「おかえしの……おかえしです……ッ! ふああああっ!」

陽子 「”おおおおおっ! “おほっ! おっ! んおおお♡”

愛 「”あああっ♡ “おおおおおっ! んおっ♡ おぼっ♡”

陽子 「これが……きもち”いいんでしょおおおお!!”

愛 「ぷっ♡ ぷふううううううううっ—————ッ♡”

陽子 「はああ♡ はああ♡ ハアア♡ 逝ったかしら?

震えてるわよ? うぎいいいっ♡”

愛 「ハアハアハアハア♡ あなたのおっぱいなんか!

ぐちゃぐちゃにしてやるうううううう!!”

陽子 「や、やめっ♡ うぎいいい! ちぎれるううううう!!”

愛 「んんんんんんんんんんんんんんんっ!!”

陽子 「` おおおおっツーーーーッ♡」

愛 「ギブアップ!？」

陽子 「いやよおおおっ♡」

愛 「ギブアップでしょ!？」

陽子 「絶対しない!!」

愛 「はあはあ……なら、これで……んんっ♡

どうですかああ!？」

陽子 「` ンぶんんんんんんっ!!」

愛、陽子の顔に股間を当てて座る。

愛 「自分の技でやられて、どんな気持ちですか!？」

おまんこで口を塞^{ふさ}がれるの、死にたくなるでしょ!？」

陽子 「ぶうううううううう!! ぶうう!! ンぶっ!!」

愛 「はあはあ! はあはあ! あなたと同じです。

降参したくなったら、おまんこ舐めてください。

それまで……」

陽子 「ぶううっ! げぶ!! ぐぶ! ンごおっ! おおっ!

“ん”ん”おおおおおおおおおっ!」

愛 「んじゅっ♡ むちゅッ♡ じゅぱっ♡ おまんこ

いじり続けます♡ んじゅうううううう♡」

陽子 「ぶおおおおっ♡ “ぶふおおおっ♡ ぶおっ♡

ぶううううううううううううううーッ♡♡ (絶頂)」

愛 「ぷへっ！ ぷはあっ！ はあ！ また逝った！

はあはあ！ また逝きましたね！ ほら！

おまんこ舐めるまで……ギブアップもできませんよ！」

陽子 「ぶうううう♡ ぼおお……ぶお……♡」

愛 「はあ♡ はあ♡ ちゅぱっ♡ むちゅ♡ はあはあ

^{いっしょう}一生、私のおまんこの下で！ 生きてくつもりですか!？」

陽子 「ぶえええええええええ！ ぶおおおっ！」

愛 「ぎぶしてえええええええええええええええ！」

陽子 「おおおお……っ！ ごおおおおっ！」

陽子 (こんなおんなに……まけるくらいなら……

なんでもしてやるう……！)

愛、陽子のおしっこが顔にかかって怯む

愛 「ぶぐうううううっ！ ああああああんっ！

やめえっ！ ぷへえええっ！ ちょっと！ おしっこ！

ぷへええええっ！ やめなさいよおお！ くうっ！

んあああああっ—————ッ！！」

陽子、愛の顔に股間を押し付けながらクンニを開始

陽子 「ぜええっ！ ぜえっ!! ぜえっ！ ぜえっ！ おえっ！

かえしたわよ……けいせい……ぎゃくてんよ……

んじゆるるうううううううううううう♡ ぶちゅ♡

んじゅうっ♡ むちゅうううううう♡」

愛 「ん” おおおお……っ！ “ああっ！ “あああああっ！

“あああああああああっ♡ いっくううう♡」

陽子 「ぶううううう！ っがああああっ♡ くびが……っ！」

愛、陽子の顔を股で挟んでクンニし返す

愛 「ハァハァハァハァ♡ 好き勝手は……させません……

シックスナインで……潰しきる……っ！」

陽子 「負けられないのよオオオっ……!! “おおおっ!?

ちゅぱっ♡ ちゅぱっ♡ むちゅうううう♡」

愛 「んじゅううう♡ ぬちゅううう♡ むちゅ♡

んちゅうううううううううううッ♡ ぜったい……

ゆずらないからあああああ！」

陽子 「` おおおお……っ！ “んおおおおおっ！ があっ！」

愛 「んううっ♡ があっ♡ はあはあ♡ ん”おほおおっ♡」

陽子 「墮ちろおおおおおっ……ッ！ むちゅ♡ んちゅ♡」

愛 「ほほおっ……！ んお”おおおおッ……!!」

陽子 「しっしん……したかしらあああっ!？」

愛 「` ああ……ッ……お……”おっ……ッ♡」

陽子 「ハアア！ ハアア！ はあっ！ わたしの……

か……ち……んんんっ!? ぶへえええええええっ！」

愛 「` あああっ♡ “ああああっ♡ ぷはああああっ♡

ひきょう卑怯なんて……いいませんよね……

さきにおしっこかけたの、そっちですから、ね!!」

陽子、愛のおしっこを顔にかけられ怯む

陽子 「ぐぞおおおおおっ！ んおお”おおおおッ！ やめ……

ごわれるうううううっ！」

愛 「はあはあはあっ♡ なんでもするって、言ったでしょ

子宮までっ！ ぐじゃぐじゃにしますからあっ！

陽子 「ぐええええっ♡ もう、もう……ッ♡」

愛 「言え！ ギブアップって！ 言いなさい！」

陽子 「 ああああっ！ “あああっ！ “ああああっーーッ♡

じぬうううううううううううううううッ♡♡♡」

愛 「しんでも……つづけますからあああッ!!」

陽子 「があああっ♡ があああっ♡ んっ！ んおおおっ！

わかったあっ！ わかったあ！ ギブアップう♡

ん”ぼほおおおッ!! ギブギブ!! んおおおおっ！

ギブアップするからああああッ♡」

愛 「あああ……っ！ はああっ！ はあああっ！

はああああっ！ やった……っ！ はあ！ かったあ！」

陽子 「 おおおおっ……おええ……♡ グ……ええ……」

愛 「はあ♡ はあ♡ かった……かったよ……見てた？

あの人のおまんこ……こうさんさせたから」

愛、男に近づいてセックスを始める

愛 「ね？ 私の愛の方が強かったでしょ……？ はあはあ♡

ごほうび、ちょうだい……♡

あの人におしっこかけられたもん……

^{なぐさ}慰めてえ♡♡ はあああああああっ♡」

陽子 「うええ……かえせえ……かえせえ……っ！」

愛 「あああ♡ ああああ♡ きもちいいいい♡
ごめんね、きたなくして♡ でも、いまほしいの♡
んほおおおおおおおっ♡ “おっ♡ “おっ♡」

陽子 「やめなさいよ……まだ……喧嘩はおわってないのに！」

愛 「はあはあはあ♡ 全部私にちょうだい♡
おねがい……ッ♡ あああん♡ あああん♡」

陽子 「だめえええええっ！」

愛 「くうううっ！ ああああああッ！」

陽子、愛を男から引きはがそうとする

陽子 「まだ決着、ついてないわよおお！」

愛 「いやだあぁっ！ 私のものおおおお！」

陽子 「わたしのよおおおおおっ！ はなれてええ！」

愛・陽子、ビンタ合戦（横線の箇所でビンタされているイメー

ジでお願いします）

愛 「ぷふううっ！ やりましたねこの！」

陽子 「ぷふううっ！ わたしのおちんぼなのよ！」

愛 「ぷふうううっ! ふうっ!! ぶふううっ!!
んあああっ!! んぶっ!! ふはああっ!!
んあああああっ!!」

陽子 「ぷふうううっ! ぶふうううっ!! ぶふううっ!!
んんんっ!! んあああっ!! ふはああっ!!
んあああああっ!!」

愛・陽子、エスカレートして相手の喉を掴み合う

愛 「っーっーッ! か、かはっ!!」

陽子 「こ、こほっ! けほっ!! けほっ!」

愛 (のどがあ……ッ!)

陽子 (のど……ッ! く、くるし……ッ!)

愛 「かはっーっーッ! お、おええっ! おえっ!」

陽子 「があああっ! こひゅーっ! こひゅーっ!」

愛 「んおっ……♡♡♡」

陽子 「んおっ……♡♡♡」

愛 (クリトリスが……♡♡)

陽子 (こすれ合ってる……♡♡)

愛 「んおおおおおッ……♡」

陽子 「か……ッ!! うえええ……ッ♡」

愛・陽子、お互いが距離を取って倒れる

愛 「ふはあああああっ! はあああっ! はああっ!

はあはあはあはあ! はあはあはあはあ!

陽子 「けほっ! けほっ!! はああ! はああ! はあ!

はあ! はあ! はあっ!

愛 「のどは……おえっ……お互いやめませんか……」

陽子 「賛成……っおえっ……^{からだ}身体で決着、つけましょう」

愛 「次、ギブアップしたら負けですよ……」

陽子 「その言葉、あなたにそのまま返すわ……」

愛 「わたしは絶対ギブアップしません」

陽子 「私だって絶対ギブアップしないから」

///トラック②終

///トラック③

愛・陽子、ベッドに並んで座って手マン勝負の準備

愛 「君も……私とのセックス、楽しみに待っててね……」

陽子 「わたしが勝つから、ここで見てて……♡

この手マン勝負で……終わらせるから」

愛 「この人のお潮しおがかかるけど、我慢してね……

私が……絶対に勝つからね」

陽子 「この子の負けまんこ……しっかり見届けて……♡

ほら、股また開いてよ……」

愛 「はうっ♡ そっちこそ、お股また開いてください！」

陽子 「うんっ♡ 強引ね……♡ なに焦あせってるのかしら？」

愛 「あなたこそ、おまんこに余裕無さそうですよ？」

陽子 「言うようになったじゃない？ 弱いくせに……」

愛 「さっきギブアップしたのはそっちですよ？」

陽子 「ふん……いいから、手マン、やってみなさいよ？

負けるのがこわいの？」

愛 「先に責めたら、負けた言い訳にされそうですから。

同時に、始めましょう」

陽子 「いい度胸ね……♡」

愛 「せーのお……ッ！」

陽子 「せーのお……ッ！」

愛・陽子、手マン合戦開始

愛 「んんんっ♡ “おっ！ おおっ♡ あああ……♡

ああああ♡ ああっ♡ いぐっ♡ あああ♡ ああ♡

んあああっ!!♡ こわしてやるうう！ さきに……！

壊してやるうううう!!♡ ああああっ♡ ああああ！

だめえええっ!! “おっ！ “おっ！ “おほっ！

挿れすぎいいいいっ!! ん”おおおおおっ！♡

ふううッ！ んんんっ♡ “おおおッ！

逝ってよおおおッ！ はああああ♡」

陽子 「うんッ♡ んああ♡ んああ♡ はあ♡ “おおっ！

“あああっ♡ しおふきしなさい!! まけいぬう……♡

“おおおおおッ♡ “おおおッ!! “おおおッ!! ああ♡

まけるかあ……♡ はあはあ♡ テクニックで……

負けるわけ……”おおお!! おほっ!! んお”おおッ!!

はやく逝ってええええッ！ “おへえええっ!!

や、やめ……ッ！ “おおおおおおおおおッ♡」

愛 「ああああ♡ ぎもちいいいいいいいい!!♡

あへええ♡ あへええ♡」

陽子 「はあはあ♡ はあはあ♡ んんんんんッ♡

おかしくなるってええええええ♡」

愛 「あああッ♡ だめッ！ だめっ♡ んえええ♡

おまんこお……先に……逝っちゃだめええええええッ♡」

陽子 「耐えてえええ♡ 負けちゃだめえええ！

おまんこ……”おおおっ♡ 耐えてよお♡

あっあっあっ♡ 逝ぐううううううううッ♡」

愛 「あついの……のぼってきだあ……ッ♡ あああっ♡

もうちょっと……我慢してええ♡ “あああああッ!!」

陽子 「” おおおッ♡ “おおッ♡ “おおおッ♡

おまんこ耐えてええええッ！ こんなおんなに、

まけるなあああああっッ！ “ンおおおおおおおッッ！」

愛 「んえええ♡ 逝って♡ 逝ってえええ♡ はやく、

倒れてええッ！ お潮^{しお}吹いてよお！ あへええ♡

んえええええっ♡ 挿れすぎだっ♡

陽子 「ああ♡ あああ♡ んええ♡ うええ♡ ぐぞおお♡」

愛 「んええ♡ 〃んええ♡ 〃んえええッ♡ ぼおおッ♡」

陽子 「逝けえええッ!! いけえええッ! うえええ♡

逝け逝け逝けええッ♡ ううっ♡ あああッ♡

おほおおおおおおおおおッ!♡」

愛 「はあ♡ あああ♡ 逝ってえッ♡ 逝ってよおお♡

逝って逝って逝ってえええええ!!♡ んえええ♡

おほおおおおおおおおおッ!♡」

陽子 「負けちゃだめえええええええエーーーーッ!!♡

あああああああああああッーーーーッ♡ (絶頂)」

愛 「負けちゃだめえええええええエーーーーッ!!♡

いやあああああああああッーーーーッ♡ (絶頂)」

愛、陽子が先に起き上がり手マンを再開される

愛 「はあ……♡ はあ……♡ はあ……♡ 〃おおっ♡

〃んおおッ♡」

陽子 「はああ……ッ♡ はああ……ッ♡ はああ……ッ♡

まだわたしは、やれるからあッ! はあっ! はあっ!」

愛 「んええっ♡ “おッ♡ “おおッ♡ やめっ……ッ♡」

陽子 「わたしの……手マンにい……勝てるわけないでしょ!？」

愛 「やめてええッ! “おッ♡ “おッ♡ “おッ♡
壊れりゅっ♡ んほおっ!」

陽子 「じゃあ……ギブアップしなさいよおおっ!」

愛 「ああああッ♡ いやああああ♡ いやあッ!
ぜったいにいやああああッ♡ んんんん!!」

愛、子宮に届くほど深い手マンで反撃

陽子 「おほおおおッ!! “おおッ♡ まってえ!!
子宮……っ! “おッ♡ “おッ♡ ああ♡
子宮はだめだってえええええッ!!♡
逝ったばかりなのにい!! んぐううっ♡」

愛 「はあ♡ はあ♡ だめええ! うええっ♡
そっちが、ギブアップしてええええっ♡」

陽子 「ほおおっ♡ “おおおっ♡ ああっ! ああっ!」

愛 「んええ♡ ンええ♡ ああああッ♡」

陽子 「ああ♡ ああ♡ “ああ♡ “おおおッ♡ “おお♡
“おおおッ♡ “おお♡ ご、ごおおっ♡ ごわれるっ!

ほんとに、こわれりゅっ！ んお”おおっ♡」

愛

「はあ♡ はあ♡ はあ♡ ”あああ♡ ”あああ♡

”あああ♡ ”あああ♡ ん”あああッ♡ ん”あああッ♡

おまんこ……♡ おまんこお……♡

こわれちゃううううううーッ♡ あああっ♡」

陽子

「だめええええええーッ!! (絶頂)」

愛

「いやああああーッ!! (絶頂)」

愛・陽子、並んで仰向けに倒れる

陽子

「はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡

はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡」

愛

「はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡

はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡ はあっ♡」

陽子

(死ぬほどもちいい……弱いところばれてきてる……)

愛

(何回逝かされたか……わからない……)

陽子

「まだ……あきらめないんだ……？」

愛

「自分が押してるつもりですか……？」

陽子

「もう動けないくせに！」

愛

「そっちこそ限界なんでしょ！ はううううっ！♡」

陽子 「はぁはぁ……♡ クリトリスと中の同時責め……♡

そろそろ、きついんじゃない？」

愛 「ああああ……♡ ああああああっ♡」

陽子 「ほら……♡ 責め返さなくていいの!? 手マン勝負なの
に」

愛 「ああっ♡ あああっ♡ あああっ♡ あああっ♡

んおおおおおおおっ!!♡」

陽子 「ぎぶあっぷしなさいよ!

もう潮吹きしかできないんでしょ! 言えっ! 言えっ!

ぎぶあっぷって、言えええっ! はぁ、はぁ、はぁ♡」

愛 「いやよおおっ! “あ”ああっ♡ “おおっ! ん”おっ!

何回逝っても! どんなにぶざまでも!! はぁはぁはぁ!

ぜったいに勝つんだからあっーッ!」

陽子、愛におっぱいを吸われる

陽子 「くちばっかり! ひゃううううっ♡ や、やめっ!

んんんんんんっ! 吸うなああっ♡ おっぱい♡

おっぱい、今だめええ♡ はううううっ♡」

愛 「んちゅうううう♡ むじゅううう♡ じゅりゅうう♡
んじゅううううううううっ！ じゅば♡
はあはあ！ こわれてえええっ！
むじゅるうううううー————ツ♡」

陽子 「ごおおっ♡ ま、また……♡ 子宮まで……ツ♡
しつこいのよおおっ♡ はああああん♡」

愛 「じゅば！ んちゅううううううううッ！！ じゅるるるる♡
ぷはあああっ！ ぷはあっ！ んええええええっ♡
んええええええっ♡ んええええええっ♡」

陽子 「 あああっ♡ “あああっ♡ いげえええッ♡
おまんこ、ばかになってるんでしょ!? “あああっ♡
んっくうううううう♡ もう無理でしょ!? ねえっ!?
ぶちまけて、降参しなさいよおおっ!!」

愛 「負けな……い……♡ まげ……“な……“い……
じゅるうッ♡ じゅりゅううううう♡ むちゅうう♡
うえっ！ ハアハアハアハア♡ “おおおッッ!!
“お”おお”おお”おお”おおーッ♡♡ (絶頂)」

愛、ベッドから落ちて倒れる

愛 「……”おおっ……………んえ……っ……ぐ……」

陽子 「はあはあはあはあはあはあ！ わたしのかち！
わたしの勝ちよ！ わたしのおまんこの方が、
^{すぐ}優れてるんだから！」

愛 「 おおっ……♡ はあはあ……はあはあ……
まだ……です……」

陽子 「はあはあ、なんで……まだ、動けるのよ……
はぐううう♡」

愛 「んじゅうううううううううううッ……♡」

陽子 「おまんこ♡ 今吸っちゃだめえええええっ♡
ああああっ！ ああああっ！ ああああっ！♡
こ、こんなの♡ ”おおっ！ ”おおおおっ！」

愛 「じゆるううううううううううッ！！♡」

陽子 「逝くに……決まってるでしょお……♡♡
んくううっ♡ ”おほおおっ♡ ほ”おおおおッ♡
っくうっ！！ 逝っくううううううううううっ！！（絶頂）」

愛 「ぷはああっ！ はああっ！ はああっ！ ああア……
^{まい}参ったかあ……^{まい}参ったかあ……」

陽子 「はあはあはあはあ……はあはあはあはあ……
クンニするだけして……もう立てないんだ？」

愛 「はあはあ……ハアハア……そんな……ぐっ！ やめっ！」

陽子 「ほら？ もっと、おまんこ舐めてよ？ はあはあ……」

愛 「あぐっ！ んぶっ！ ふはああっ！ はああっ！」

愛 (もう一回おまんこに敷かれたら……しんじゃう……)

陽子 「ほら！ 手、どけなさいよ！
またおまんこで、敷き潰してあげる！ はあはあ」

愛 「やだああっ！ ふはああっ！ んんんんん！
ふんんんんんっ……ッ！ はあはあはあはあ」

陽子 「ハアハア……^よ四つん^ば這いになって……逃げたつもり？♡」

愛 「……!? っ……かあっ♡ ……………”おッ……おほ♡」

陽子 「はあはあ♡ バックからの子宮責め♡ んふ♡
もう満足に声も出ないんだ？」

愛 「……………”おお♡」

陽子 「ふふ……さっき子宮をぐちゃぐちゃにしてくれたお礼♡」

愛 「はあはあ……んえ♡ ……………だめえ……………
おくに……………あたってるう……………♡」

陽子 「やられたことは、はあはあ……全部やり返すわ」

愛 「……………こおおっ!! “おおっ!! (放尿)」

陽子 「なに? こうさんのおしっこ？」

愛 「ノー……ッ……………んおっ♡ `ノー!!」

陽子 「ねえ彼氏君? もうタオル投げた方がいいんじゃない？」

愛 「止めないでええっ! ぜったい……かつ……からあ！」

陽子 「お漏らししながら、よく言えるわね！」

愛 「……んう……! ……おおっ……♡ “お♡」

陽子 「降参するまで、逝かせ続けるから！」

愛、床を叩きながら、快樂に耐えるように

愛 「……おお! “おおおッ! “おおおおッ♡」

陽子 「動けないなら、降参しなさい！」

愛 「……………んんおおおおおおおおおおッ！」

陽子 「こいつ……この体勢で、立ち上がって……」

愛 「負ける……もんかあああぁっ!!」

陽子 「きゃあああぁっ!! っ! いったあああぁっ!

はあっ……ッ! や、やめっッ……いやあああぁっ♡

お股^{また}……割^きけちゃう……んうううう♡」

愛、陽子の股間を無理やり開いて、手マンを開始

愛 「はあはあ……こっちの方が、もっと奥を……
責めますよ……………」

陽子 「……”おおおおっ♡…………”おほっ!! んぐ……ッ♡
”ああ♡ ”ああ♡ ”ああ♡ ”ああっ!!♡
くそおっ……ッ♡ ポルチオばかりいい♡
逝っくうううううううーッ♡ (絶頂)
おしっこも……とめられない……ッ♡ (放尿)」

愛 「そっちが……はあはあ……降参してえ!
こんなみっともないかつこう恰好で……
おしっこも、お潮しおも噴いて……
恥ずかしくないんですか!？」

陽子 「はあ♡ はあ♡ はあー♡ はあー♡
男を奪とられるくらいなら……はああううう♡
”ああ……ああ……ッ♡ なんでも耐えるわよ！」

愛 「私の男なんだからあああっ！」

陽子 「わたしだって……遊びじゃないのよおおッ！」

愛 「うぎいいいいーッ！ 髪……っ！ やめてえ……
んんんんんん♡」

陽子 「じゅるううううううううううううう♡」

愛 「んむっ……♡」

愛 (ばきゅーむ……きす……っ……い、いきが……
くるしいのに……きもちいい……♡)

陽子 「じゅるるるるうッ♡ ふはあぁっ!! はぁっ!
はぁっ、はぁ、はぁ……はぁ……はぁ……はぁ……」

愛 「ふはぁっ! はぁぁっ! はぁ! はぁ! はぁ!」

陽子 「んんっ……♡ あへえ……♡ (軽い絶頂)」

愛 「はぁはぁ……っ♡ ん”えええ♡ (軽い絶頂)」

陽子 「はぁはぁ……もう、まんぞくに立てないようね……
はぁはぁ……」

愛 「はぁはぁはぁ……お互い様……ですよね」

陽子 「引き分けなんて、はぁ、無いから」

愛 「はぁ、望むところ、はぁ、ですよ」

陽子 「じゃあ、どっちが消えるか、はぁ……
おまんこの、直接対決で決めましょうか……はぁはぁ……」

愛 「ええ……今度こそ心を折ってみせます……

股、開いてください……」

陽子 「はっきりさせてあげる……

どちらが彼氏君にふさわしいか……^{かいあ}貝合わせ勝負で……」

愛・陽子、貝合わせの体勢を取る

愛 「はううっ……ッ♡ あああっ♡」

愛 (おまんこ合わせただけで……快樂がのぼってくる♡)

陽子 「はあん♡ うう♡」

陽子 (柔らかいおまんこが……吸い付いてくる♡)

愛 「君も……私のおまんこ、応援してっ♡」

陽子 「わたしとやりたいんだよね♡ 待っててね♡」

愛 「今、潰すからあ……！」

陽子 「今、潰すからあ……！」

愛 「“ああ♡ “ああ♡ “ああ♡ “ああ♡ “ああ♡

“ああ♡ “ああ♡ “ああ♡ “ああ♡ “ああ♡

いけえっ♡ いけえっ♡ いけえっ♡ いけえっ!!♡

彼は、私のもの♡ 私のものなんだからあっ!♡

んああああッ♡ “オオっ♡ “オオっ♡ “オオっ♡

私のほうが……はああっ♡ 愛してるわああっ♡

ん”ああっ!! ん”ああっ!! ん”ああっ!! ん”ああっ!!

熱いの……のぼってくるううう♡」

陽子

「”ええ♡ ”ええ♡ ”ええ♡ ”ええ♡ ”ええ♡

”ええ♡ ”ええ♡ ”ええ♡ ”ええ♡ ”ええ♡

いげえっ♡ いげえっ♡ 逝け逝け逝けえええーっ♡

あんっ♡ あんっ♡ あんっ♡ あああっ♡

わたしのものよおおおーっ♡

あんたが……消えるほうなのよおおっ♡

わたしの愛のほうが、強いんだからあっ♡

”おおおっ!! ”おおおっ!! ”おおおっ!! ”おおおっ!!

おまんこがあ! おまんこが、ぶっこわれりゅう!!♡」

愛

「んえええええええっーっーっ!!♡♡ (絶頂)

”おおおっ!♡ ”おおおっ!♡ ”おおおっ!♡

まだよおっ♡ ”おおおっ!♡ ”おおおっ!♡

はあはあ♡ はあはあ♡ 意識飛びそうなくせにい!

はあはあ♡ はあはあ♡ はあはあ♡ はあはあ♡

まけない……っ♡ まけないい……っ♡

まけないい……っ！♡ まけないい……ッ！！♡

まけるもんかあああ—————ッ！！♡♡」

陽子 「うええええええっ—————ッ！！♡♡（絶頂）

“おおおっ！♡ “おおおっ！♡ “おおおっ！♡

“おおおっ！♡ “おおおっ！♡ “おおおっ！♡

もっとおまんこ、すりあわせてきなさいよお！

はあはあ♡ はあはあ♡ はあはあ♡ はあはあ♡

まけないい……っ♡ まけないい……っ♡

まけないい……っ！♡ まけないい……ッ！！♡

まけるもんかあああ—————ッ！！♡♡」

愛 「はああッ♡ あついの……またくりゅうう！！ 待って！

おまんこ、耐えてよおおっ♡ あっ♡ アッ♡ アッ♡

こんなひとにい♡ まけないでえええ♡」

陽子 「もうだめえっ♡ からだの底から……ぶっこわれりゅ♡

“おおっ♡ “おおっ♡ “おおっ♡ “おおっ♡

もうちよっとだけ……おねがい……がまんしてえっ♡」

愛 「ぶっ♡ はへ♡ もう……………んえ♡

むりいいいい！！♡♡（絶頂）」

陽子 「おほッ♡ はへ♡ げん……かい……

“いぐ”ううううううううううーッ!!♡♡ (絶頂)」

愛・陽子、快樂で意識を失いかけるが、貝合わせを続ける

愛 「んええ♡ あへ♡ んへええ♡ んへえ♡ あへ♡

んんんっ♡ えへええ♡ あえ♡」

陽子 「あええ♡ おほ♡ んへええ♡ ふええ♡ あへ♡

あええ……♡ えへええ♡ あえ♡ はあはあ♡

ふにiiiiiiiiiiiiiiiiii♡」

愛 「んあああああああああああああッ♡ あっ♡ あっ♡

くうううううううううう!!」

陽子 「んあああああああああああああッ♡ あああああッ♡」

愛 「ああっ♡ もうこわれりゅ♡ こわれりゅ!♡ むりい♡

んえっ♡ あえ♡ いぐっ♡ んえっ♡ もう、

きもちいいのむりい♡ あへえええっ♡」

陽子 「あひいい♡ あひいい♡ えええっ♡ こわれりゅ♡

ずっと! いきっぱなし♡ おおおおっ♡ しぬう♡

あああ♡ ああっ♡ うええええええっ♡

ぶっっ♡ んおおお……っ♡♡」

陽子 (とぶ……いしきが……いしきが……っ……)

愛 「もう、^お堕ちてええっ♡ おおッ……♡」

陽子 「はうううう……♡ えええっ♡ あへえええ♡」

愛 「堕ちてよおおおー……っ♡♡♡」

陽子、狂ったようによがる

陽子 「……………ッ!! “おおおッ!!♡ (絶頂)

んえええッ♡ (絶頂) ぶへえええええッ♡♡ (絶頂)」

愛 「ああああ♡ ああ♡ あああ♡ あああ♡ あああ♡」

陽子 「” おおお……ッ♡ おお……♡」

陽子 (からだか……………うごかない……)

愛 「はあはあ♡ はあはあ……はあはあ…… んんんんっ♡

おまんこも……おっぱいも……押さえ込みましたよ……♡」

陽子 「はううううっ♡ ああああっ♡ ああああっ♡

ああああっ♡ ああああっ♡」

陽子 (乳首もおまんこも……こすれあってる♡)

愛 「おまんこのほうは……んん♡

もう降参した……みたいですよ……ああ♡

あなたも……はやく……んんっ♡」

陽子 「んんんんんんん♡ んんんんんんん♡」

愛、以降泣きながら話すイメージで

愛 「んんんんんんんんんんんっ!!♡ むだ……ですう♡
ぜったい、うえから、ああ♡ どきませんから……」

陽子、以降泣きながら話すイメージで

陽子 「あへ♡ あへ♡ ちからがあ……♡ ぶおおおお♡
おっ♡ おっ♡」

愛 「ぎぶあっぶしないなら……ああ♡ ああ♡
しぬまで、責め続けますよ……
おまんこ、壊してあげますう♡ あへえええ♡」

陽子 「はああ♡ はああ♡ ああああ……♡」

陽子 (もうぜんしんが……^{せいかんたい}性感帯になってる……
少し動いただけで……^ふ触れられただけで……
逝っちゃう……)

愛 「ぎぶあっぶしてください!
^{あいえき}愛液……とまってませんよ……もう^{かいあ}貝合わせ……
続けられないんでしょ!？」

陽子 「ああ♡ あああ♡ いっちゃううううう♡ (絶頂)」

愛 「ほら、おまんこはもう、ギブアップって……

言ってますよ……！」

陽子 「いやっ♡ いやああ！ 降参なんて、しないから！」

愛 「いやです！ 降参してください！ んんっ♡ んんっ♡」

陽子 「ああっ♡ ああっ♡ ひぐっ……えぐっ……んええ♡」

愛 「もう^{あきら}諦めてええええっ♡」

愛 (私だって……もう……)

陽子、体（くち）が勝手にギブアップを宣言しようとするの
を、手で押さえるイメージ

陽子 「ふえええ♡ んえええ♡ “おおおっ！！♡

……ギ……ギ………ッ……ンンン！」

愛 「はあ♡ くちを、手で^{ふさ}塞いでも、

はあはあ♡ 無駄です……！ あはああああ♡

私が何回逝っても……♡

それ以上に……逝かせるんだからああっ♡」

陽子 「あへええええ！！♡ うえええええっ！！♡」

愛 「あへえ♡ あへえ♡ ぎぶしてえ♡ ぎぶしてえ！♡」

陽子 「あへえ♡ あへえ♡ あへえ♡ あへえ♡ “おっ♡
ギ……っ……ぎいいい……ッ♡」

愛 「ぎぶしてよおおおおっ!!」

陽子 「……ギブううううッ!! ギブアツプッ♡
ギブギブッ♡ 負けましたあ♡ あへええ♡
もう♡ あへええ♡ もう、逝けません♡ “おおおっ♡」

愛 「私の勝ちで……いいですね……？」

陽子 「ああああ♡ ああああ♡ はい……負けましたあ♡
あなたの勝ちですから♡ もうやめて♡
やめてください……ッ♡ おおおお♡」

愛 「はあはあはあはあ……はあはあはあはあ♡
やった……ッ! はあはあはあはあっ……ッ!
やったあああああッ! ひぐっ! うえっぐ!」

陽子、激しく泣きながら

陽子 「あああ……! ぐぞおおおおおッっ……!
ああんっ! うえっ! ひぐっ!! ぐひんっ!
ぐやじいいいい……ッ! ぐやじいいいいッ!」

愛、喜びながら甘える

愛 「ねえ……きみ……♡ 勝ったよ♡ 勝った♡

悪い女は……倒したからね……♡ セックスしよ♡」

陽子 「まって……っ！ まってえ……ッ!! あああ……

”おおおッ♡ ……ッ！ からだが……♡ おおっ♡

逝くの……止まらない……ッ♡」

愛 「ごめんね……どろどろで……♡ がんばったから……

いっぱい褒^ほめて♡ んんんっ♡」

陽子 「ぐひんっ！ うえっ！ んえっぐ！ やめてえええ……」

愛 「ああん♡ ああん♡ はあん♡ さいっこう♡♡」

陽子 「ひぐっ！ うえっぐ……ひぐっ！」

愛 「おねがい……♡ えきべんがいの♡

えきべんで壊して♡ もう動けないの……♡

んんっ♡ ああああっ！♡ あああ……ありがとう♡

きもちいいよお……♡ 勝利のせっくす……

きもちよすぎい……♡♡♡」

陽子 「ああああ……っ！ やめてええ……」

愛 「もう……”おっ♡ 動けなくなっていいからっ……

”おおっ♡ あの人の見せつけて♡ あああ……♡

私たちの……愛を……っ♡ ああっ♡ もう二度と……

^{ちかづ}近付けないくらいに……見せつけましょう♡

あああああああっ♡」

陽子 「うわあああああん！ えぐっ！ うえっ！ ひぐ！」

愛 「あああああっ♡ んっ♡ んっ♡ んっ♡ んっ♡

逝っくううううううーっ♡♡♡」

///トラック③ 終

///トラック④

愛 「じゃあ、この人……追い出してくるね♡

帰ったらまた、続きしよっ♡」

陽子 「 ああっ……”ああ……………」

愛 「この部屋ですね」

愛、陽子を自身の部屋に押し込む。倒れた陽子の顔に愛は股間

を押し付ける

陽子 「ああんっ！ ”あ……むぐううううううーっ！」

愛 「ゴミ捨て場に捨てなかつただけ、感謝してください」

陽子 「むぐううう……むぐうう……」

愛 「あなたが負けた私のおまんこの味……

よく覚えておいてくださいね」

陽子 「んんんん～～～っ!! ぶぐううううっ!!」

陽子 (しぬ……っ！ 死ぬ……死ぬ死ぬう……ッ)

愛 「少しだけ空気吸わせてあげます」

陽子 「ぷはああっ！ はああ！ はあ！ はあ！ はあ！

おええええええええっ！」

愛 「これまでと何も変わりませんよ。

あなたはこの部屋から、

私たちのエッチを聞いただけ。 いいですね!？」

陽子 「んぶうううううううっ!! ぶぶぶぶぶっ!!」

愛 「わかったら、おまんこ舐めてください！」

陽子 「ぶぐうううっ!! ぶぐううううっ!!」

愛 「おまんこで死にたくないでしょ！」

陽子 「ぶぐううううっ! ぶぐううううっ!」

陽子 (ぐやしい……っ! ぐやじいっ! ぐやじいっ!)

愛 「あなたには……^{ようしゃ}容赦なんてしませんから！」

陽子 「ぶううううううっ!! うえええっ!!」

愛 「ねえっ! 聞こえてるんでしょっ!？」

陽子 「ぷはあああっ! ぷはあああっ! ああああっ!

おえええっ! はあはあはあ!!」

愛 「はあはあ……3回目の拷問^{ごうもん}……やりましょうか?

いくらでも付きあいますよ……?」

陽子、愛の股間を舐める

陽子 「ひぐっ！ ひぐっ！ んじゅうううっ！
ちゅぱっ！ じゅぱっ！ “まげ”まじだ……
ああ……………」

愛 「はあ……はあ……はあ……
私のおまんこに命乞いのちごいした事実、
しっかり覚えておいてくださいね？」

陽子 「 あああ……………」

愛 「はあはあ……今日はこれで終わりにしてあげます。
もし彼に手を出したら、次こそ潰しますから……
今よりもっと屈辱を与えて……」

陽子 「 あう……………」

愛 「どうしても彼が欲しいなら、
私に勝ってからにしてください。
約束破ったら……」

///SE パシャッ (スマホのシャッター音)

愛 「この写真、ばらまきますから」

愛、陽子の部屋を出る

愛 「わかりましたね」

///SE ガチャン（ドアを閉める音）

陽子 「はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……はあ…

はあ……はあ……はあ……はあ……潰すっ……!!」